YAGP2017日本予選 特別レクチャー

“11歳まではトウ・シューズは履かなくていい”

若手ダンサーの登龍門コンクール、ユース・アメリカ・グランプリ日本予選で
世界のバレエ学校の教師陣が日本の子どもたちに貴重な提言を行った。

十月、若手ダンサーを支援するスカラシップ・コンクール、ユース・アメリカ・グランプリ（YAGP）2017日本予選が尼崎で開催。その結果は先月号でお伝えしたが、十月二十九日の審査終了後、コンクール参加者やその関係者に向け、審査員による特別レクチャーが行われた。

「世界中の学校を訪れる機会が多いのですが、日本人の生徒は他の国の生徒と比べて怪我をする確率がとても高いことが気になっていました」と、まずYAGP創設者／芸術監督のラリッサ・サヴェリエフが切り出した。トウ・シューズを履く年齢が早すぎることに原因があるのではないか、と以前から憂慮していたという。

実際、九～十一歳が対象のプリコンペティティヴ部門でも、トウ・シューズで踊る生徒は多い。英国ロイヤル・バレエ・スクール芸術監督のクリストファー・パウニーは子どもたちにこう語りかけた。

「もちろん十歳でもトウ・シューズを履いてヴァリエーションを踊ることができるし、十分にその能力があるように見える生徒もいます。しかしコントロールできているように見える子でも、まだ骨は出来上がっていないのです。ですから、どういうダメージがあって、成長した際にどういう怪我が起こり得るか、頭に入れてほしい。

それ以外の生徒は、トウ・シューズを履くこと自体が大変そうです。強いドゥミ・ポワントもプリエもしっかりできていないから、とても苦労している。十歳くらいの時期には、まずは強いドゥミ・ポワントができること、しっかり立つことで綺麗なテクニックをこなせるところを私たちは見たいと思っています。世界のトップスクールでも、目安として十一歳になるまではトウ・シューズを履きません。そうすることで、ビルを建てるように一つずつ段階を経て進んでいくのです」

カンヌ・ロゼラ・ハイタワー・スクールのバレエ教師であると同時に医師の資格も持つピーター・リュートン・ブレインの説明も、喩えを使ったわかりやすいものだった。

「若い身体は若い木と一緒。骨はまだ柔らかいままなのです。若い木を植えたら、正しい方向に伸びていくように気をつけなくてはいけない。成長は一回きり、やり直しはできないのです。骨の成長と、身体にかける力のバランスを、丁寧に見つけていかなくてはいけない。木を育てるときは正しく伸びるよう両側から添え木をしますね。引っ張り具合が正しいとまっすぐ伸びていく。もし片方が強すぎたら木は倒れてしまいます。そうなったらもう取り返しがつきません」

そして、こう続けた。

「クラシック・バレエのすべてのテクニックは、アン・ドゥオールに基づいています。その深い部分の筋肉をしっかり骨を支えて作っていかなくてはなりません。まずはしっかりと身体が引きあがっていなくてはいけない。三回転ピルエットを回る前に大切なのは、一回転しっかり回って正しく下りてくることです。三回転や四回転を間違えた筋肉を使ってやり続けたら、やがて怪我をしてしまう。体重が二十キロくらいのときは大丈夫に見えますが、成長して四十キロくらいになったときにその違いが出てしまいます。小さいときにプリエやタンデュの正しい動きをしっかり筋肉に覚えさせることによって、大きくなっても無理なく踊れるようになるのです」

長年日本を訪れているシュツットガルトのジョン・クランコ・スクール校長タデウス・マタチは最近のコンクールでのテクニックの行き過ぎについても触れた。

「最初に日本に来たときは、プリコンペティティヴ部門で踊られる曲はブルーバードとキューピッドくらいしかありませんでした。しかし、SNSやYouTubeをはじめとするインターネットの発達で、何回回ったかをシェアできるようになって、どんどん競争が激しくなり、やることが難しくなってしまっているのが心配です」

最後に、パウニーは次のように締めくくった。

「何回転するかが大切なのではなく、その回転の質こそが大切なのです。ぜひシンプルにしてください。シンプルにすることで身体ももっと強くなる。たとえシンプルなテクニックをしていても、その子に可能性があるかどうか、先生方はちゃんと見つけますから心配しなくても大丈夫です」

「覚えておいてほしいのは、今日スローダウンする――やりすぎないことで、明日もっとよくなる可能性があるということ」とサヴェリエフは話したが、彼らのアドバイスは、若い才能が将来ダンサーとして長いキャリアを送るためにも耳を傾けるべきものであるように思われる。

（左から）クリストファー・パウニー、ピーター・リュートン・ブレイン、タデウス・マタチ　© Hideaki Tanioka　上：YAGP2016 NYファイナル（スカラシップ・クラス）© Shinshokan Dance Magazine

新書館ダンスマガジン2017年3月号より